

2017 年 05 月 09 日（火）【外為 L a b】松田哲
タイトル：【ゴールデン・ウィークが明けました】

今年のゴールデン・ウィークは、まさに、ゴールデン・ウィークらしい展開だった、と考えます。

通常のマーケット（外国為替市場）では、それぞれの通貨ペアの値動きは、その他の通貨ペアの値動きに影響を与えます。

しかし、今年のゴールデン・ウィークは、市場参加者が極端に少ない中、それぞれの通貨ペアは、それぞれの都合で、ばらばらに、勝手に動いた印象です。

概して言えば、以下の通り。

ドル／円は、「ドル高円安」傾向に動いた。

ユーロ／ドルは、「ユーロ高ドル安」傾向に動いた。

ポンド／米ドルは、「ポンド高米ドル安」傾向に動いた。

豪ドル／米ドルは、「豪ドル安米ドル高」傾向に動いた。

対ドルで見ると、ドル／円と豪ドル／米ドルが、「ドル高」傾向に動いた。

対ドルで見ると、ユーロ／ドルとポンド／米ドルが「ドル安」傾向に動いた。

さらに、クロス円を見ると、ユーロ／円は、「ユーロ高円安」傾向に動いた。

ポンド／円は、「ポンド高円安」傾向に動いた。

しかし、豪ドル／円は、「豪ドル安円高」傾向に動いた。

市場参加者が少なく、マーケット（外国為替市場）の値動きに、整合性が無い、と感じます。

今年のゴールデン・ウィークは、「北朝鮮問題」のリスクもあり、まさに、不透明な相場だった、と考えます。

5月7日（日曜日）のフランス大統領選挙は、事前予想通りの結果で、大過なく過ぎた、と考えます。

しかし、まだ、本日（5月9日）の韓国大統領選挙が残っています。

韓国大統領選挙に関しては、事前予想通りの結果となるのだろう、と考えていますが、昨年（2016年）の「英国のEU離脱」や「米国大統領選挙」を思い起こすと、結果が出るまで、安心はできない、と考えます。

つまり、イベントの結果を見越して、事前にポジションを取ることは、リスクがある、ということです。

昨年（2016年）の「英国のEU離脱」や「米国大統領選挙」から学んだことは、マスコミの報道を、鵜呑みにしてはいけない、ということ。

今回のフランス大統領選挙では、事前予想通りの結果であり、上述のような考え方は、「あつものに懲りて、なますを吹く」ということなのでしょう。

しかし、そこに（＝マスコミの情報を鵜呑みにすることに）、リスクがあることを再確認された、と考えています。

今回の韓国大統領選挙は、親北朝鮮の政策を採るムン・ジェイン候補が勝つと、私も予想しています。

韓国大統領選挙の結果が出て、イベントが終了すれば、相場本来の値動きに戻る、と考えます。

換言すれば、現時点のイベント終了前の相場は、特殊な状況と考えます。

あわてずに、相場が、韓国大統領選挙の結果を織り込んでから、ゆったりと、ゴールデン・ウィークが明けの相場に参入すれば良い、と考えています。

ムン・ジェイン氏が勝利の場合に、
「韓国と米国の関係がどのようなになるのか？」
に注目しています。

+++++

しかしながら、振り返ると、ゴールデン・ウィーク直前から、ゴールデン・ウィーク真っ最中に、金融政策に関して、非常に重要な発表が連発した、と考えます。

4月下旬頃からゴールデン・ウィークの最中は、マーケットは、まともな反応を示さなかった、と考えています。

ゴールデン・ウィーク直前に、日銀の政策決定会合があり、「現状維持」を発表した。

つまり、今後も、日銀の緩和的な金融政策が維持される。

同様に、ゴールデン・ウィーク直前に、ECB理事会があり、これも「現状維持」を発表した。

ECBに関しては、
「これまでの金融緩和策の出口戦略を模索しているのではないか？」
といった、市場参加者の思惑が強い様子だ。

しかし、ECB理事会後のコメントでは、緩和状態を維持する内容だった。

先週になって、FOMCがあり、米国の金融政策も、「現状維持」を発表した。

しかし、米国に関しては、
「これまでの金融緩和策の出口戦略は、既に、スタートしている」。

だから、米国は、緩和策ではなく、引き締め策に相当する。

ただし、米金利の絶対値が、引き続き、低い水準なので、緩和的である、とする向きがあるが、それは詭弁に過ぎない。

絶対値がどうであろうと、米国は、既に、引き締め策に舵を切った。

今年の後半に、F R Bのバランス・シートの縮小を開始すると、明らかな、「金融引き締め効果」が出てくるはずだ。

そして、米国は、来月（6 月）のF O M Cで、政策金利を 0.25%引き上げる、と予想しています。

米国の年内の利上げは、さらに、2 回実施するのだろう、と予想しています。

ゴールデン・ウィークが明けて、市場参加者が戻り、フランス大統領選挙、韓国大統領選挙といったイベントが終われば、「各国の金融政策の違い」は、重要なファクターになる、と考えます。

+++++

（2017 年 05 月 09 日東京時間 16 : 00 記述）